

ねぎ・秋冬どり（品種：元蔵）

東葛飾農林振興センター

1 地区名

市川市

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1戸
- (2) 栽培面積 10a
- (3) 収穫量又は出荷量 2,500kg/10a
- (4) 出荷先又は販売方法 学校給食、直売 ※19年度栽培計画より

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	4回	18回
化学肥料(窒素分量)	10.2kg/10a	13kg/10a

4 事例のあらまし

市川市は江戸川を挟んで東京都と接する都市化の進んだ地域です。市街化が進むなか、直売や契約販売など、立地性を活かした販売に取り組む生産者が増えています。また、住宅地に隣接するほ場も多く、周辺の環境に配慮した農業生産が求められています。

本事例では、緑肥を取り入れた土づくりや、緩効性肥料の施用などによる窒素施肥の低減により、環境にやさしい農業を実践しています。生産されたねぎは、学校給食で地域の小学校に利用されるほか、直売などで近隣の消費者に利用されています。

5 背景・動機

(1) 栽培者のエコ農業への関心

農業経営の主たる経営者となった30代のころに減農薬栽培に関心を持ち、できるだけ農薬を使用しない栽培法を心がけてきました。

(2) 都市化の進展

市街化の急激な進展に伴い、ほ場の周囲を住宅が取り囲むようになり、周辺環境に配慮した生産技術の導入が必要となりました。このため、化学肥料の使用量や農薬散布回数の削減に取り組みました。

(3) 学校給食への取り組み

近隣の小学校と連携して学校給食への食材提供や農業体験などの食育活動を積極的

に行っています。この中で学校給食の栄養士と相談して、使用している食材が安全な農産物であるということを積極的にピーアールするために、ちばエコ認証を受けることにしました。現在、ねぎのほかキャベツ、ばれいしょでも認証を受け、市内の小学校8校に納入しています。

6 栽培方法

(1) 土づくり

緑肥として、前作にねぎと相性が良いとされるアンジェリアを栽培・すき込むことで、土づくりを行いました。

(2) 緩効性肥料の基肥局所施肥

定植時に基肥を植え溝に施用することで、ねぎが効率よく肥料を吸収できるようにしました。基肥に緩効性肥料を用いることで追肥回数を減らし、減窒素栽培を実現しました。また、追肥に有機質肥料を使うことにより化学合成成分由来の窒素施肥量を減少させました。

(3) 輪作を基本とした作付

栽培は輪作を基本とし、植えつけるほ場を毎年変えることで、病害虫の発生などの連作障害を避けました。

(4) 農作物の観察による早期防除

ほ場が民家に囲まれており薬剤散布が困難なことから、農薬は粒剤を主体に使用しました。また、農作物をよく観察することにより病害虫の発生を早期に発見すると共に適期防除を心がけました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年 5月 4日
播種	4月 6日
耕起	5月 4日
定植	6月 7日
収穫開始	12月 1日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
マイクロロングトータル201(12-10-11)	平成19年 4月 7日	1.6kg	0.2kg	0.2kg
S Cねぎ専用047 (10-14-7)	6月 7日	60kg	6kg	6kg
ダブルパワー030 (10-13-10)	9月11日	40kg	4kg	4kg
甘熟特選 (6-6-2)	10月30日	40kg	2.4kg	

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
オンコル粒剤5	ネギハモグリバエ	平成19年 6月 7日
コンボラル	畑地一年生雑草(ツユクサ,キク科を除く)	6月 7日
ダントツ粒剤	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ	7月22日



減窒素栽培の現地検討会



小学校での食育学習



小学生を招いての農業体験

7 今後の展望等

(1) ちばエコ認証品目の拡大

現在、ねぎのほかにキャベツ、ばれいしょでもちばエコ認証を受け、学校給食への提供をしています。今後は、えだまめなど新たな品目で認証を受け、提供する品目数を拡大していきます。

(2) 環境にやさしいねぎ栽培の拡大

ねぎは市川市において、梨に次ぐ生産額を誇る主要品目です。本年5月、自らが代表となり、ねぎの減窒素栽培の実践を目的としたJA市川市野菜部会ねぎ研究班

を設立しました。現在、青年層を中心とした14名の仲間とともに同技術を利用したねぎ栽培を実践しています。今後これらの仲間と共に、環境にやさしい、都市と共生したねぎ生産を行っていきます。